

Economic Indicators

発表日:2022年8月17日(水)

貿易統計(2022年7月)

～中国向け輸出は持ち直すも、米国向け輸出の減速が回復の頭を抑える～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量					
		輸出金額		輸入金額		前年比	アメリカ		EU		前年比	アメリカ		EU	
		原数値	季調値	前年比	前年比		前年比	前年比	前年比	前年比		前年比	前年比	前年比	
21年	7月	4,345	▲432	37.0	28.1	25.2	19.4	38.4	20.4	1.9	2.2	▲0.6	4.6		
	8月	▲6,534	▲3,109	26.2	44.7	13.8	13.2	29.2	11.1	14.4	12.8	28.2	13.2		
	9月	▲6,369	▲5,832	13.0	38.4	3.3	▲9.8	15.3	8.9	7.5	17.0	6.1	6.7		
	10月	▲750	▲3,713	9.4	26.8	▲2.6	▲8.2	5.2	▲0.1	▲3.0	2.0	2.3	▲4.2		
	11月	▲9,569	▲5,029	20.5	43.8	4.7	▲2.8	10.8	5.4	6.0	17.1	24.2	2.3		
	12月	▲5,889	▲4,300	17.5	41.2	2.1	6.7	3.4	▲0.5	1.0	8.7	5.1	1.0		
22年	1月	▲21,994	▲9,022	9.6	38.8	▲4.1	▲1.0	9.7	▲10.5	4.8	4.8	21.0	3.9		
	2月	▲6,772	▲10,195	19.1	34.2	2.8	5.0	2.1	6.1	▲0.8	6.1	12.8	▲5.4		
	3月	▲4,240	▲9,791	14.7	31.4	▲1.4	11.7	7.6	▲7.2	0.0	▲2.1	2.7	▲0.3		
	4月	▲8,538	▲15,591	12.5	28.4	▲4.5	7.9	6.7	▲8.1	▲8.9	▲10.1	5.2	▲15.6		
	5月	▲23,906	▲19,016	15.8	49.0	▲3.5	▲1.2	▲2.0	▲4.2	4.7	▲1.7	6.4	3.1		
	6月	▲13,985	▲19,500	19.3	46.1	▲1.6	▲1.6	6.7	▲2.5	1.3	▲1.8	▲6.6	2.1		
	7月	▲14,368	▲21,333	19.0	47.2	▲2.1	▲6.2	17.3	▲2.1	2.3	17.3	▲4.1	2.3		

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○貿易赤字(季節調整値)の拡大が続く

財務省より発表された7月の貿易統計によると、貿易収支は▲14,368億円の赤字(コンセンサス:▲13,625億円、レンジ:▲19,470億円～▲11,200億円)となった。輸出金額は前年比+19.0%(コンセンサス:+17.6%、レンジ:+6.8%～+20.8%)、輸入金額は同+47.2%(コンセンサス:+45.5%、レンジ:+12.8%～+55.0%)となった。輸出は、6月に引き続き前年比で+19%台での伸びを継続させたが、原油高や円安を背景に輸入が伸びを高めたことで、貿易収支は12カ月連続の赤字となった。

季節調整値での貿易収支は▲21,333億円の赤字となった。輸出(前月比+2.1%)、輸入(前月比+3.5%)とともに増加したが、輸入が輸出を上回る展開が続き、前月から赤字幅拡大となった。

○中国向けが持ち直すも、米国向けの減速が頭を抑える

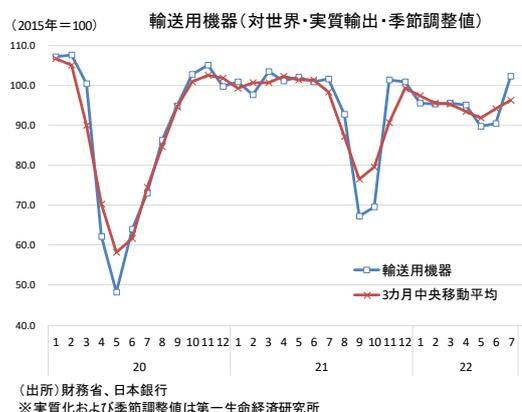
為替等の物価変動の影響を除いた7月の実質輸出は、前月比+0.9%(6月:同▲0.7%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算)となった。

地域別に見ると、米国向けが前月比▲0.7%(6月:同▲0.6%)、EU向けが同+3.3%(6月:同+2.0%)、アジア向けが同+2.5%(6月:同▲1.6%)、アジア向けのうち中国向けが同+5.2%(6月:同+2.2%)となった。ロックダウンの解除により中国向け輸出が幅広い品目で持ち直す一方で、景気減速感を強めている米国向け輸出が2カ月連続のマイナスとなり、実質輸出の回復の頭を押さえ

ている状況だ。

米国向け輸出は、日本国内の自動車生産の回復から輸送用機器が前月比+16.8%と大幅に伸びを高めたが、電気機器（前月比▲8.8%）を中心とするその他の品目の落ち込みをカバーするに至らず、前月比でマイナスとなった。

主力である輸送用機器（対世界）は、前月比+13.1%（前月比寄与度+2.5%pt）となった。中国のロックダウンの解除以降、部品供給制約が緩和したことで、持ち直しがみられている。もっとも、今月は先月までの反動増で幾分上振れた側面もあるように見える。均してみれば21年夏場から続く供給制約による落ち込みを取り戻す水準には至っておらず、回復のペースとしては緩慢だ。

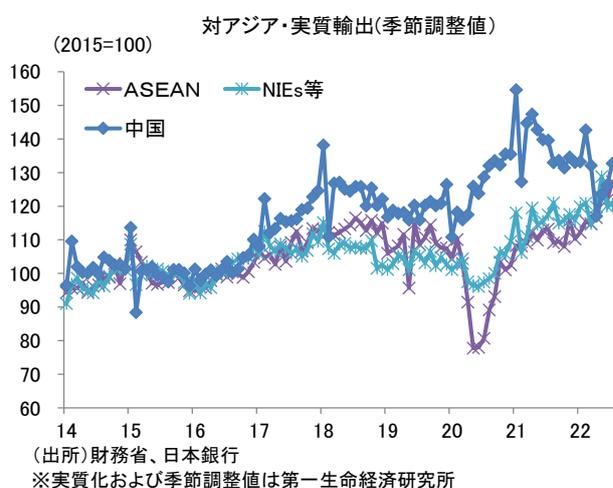
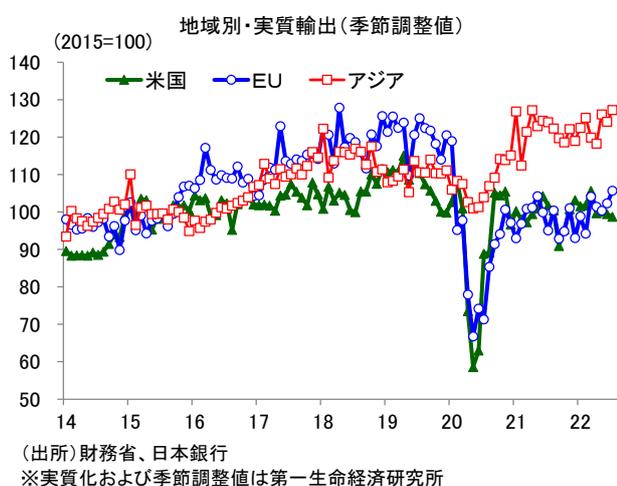
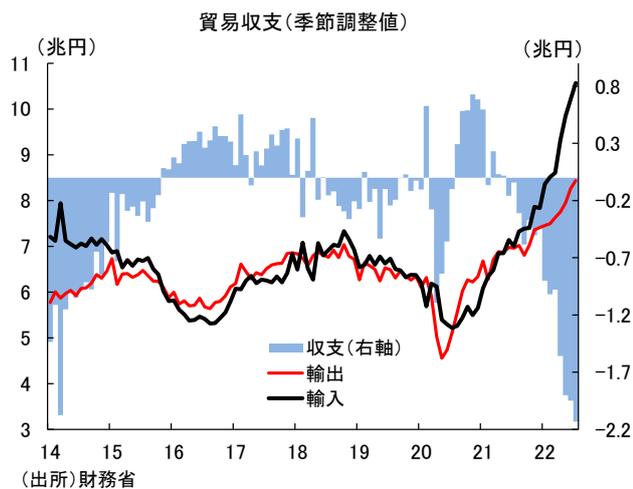


○先行きも高水準での貿易赤字が続く見込み

先行きは、当面は貿易収支（季節調整値）は高水準での赤字が続くとみる。

輸出は下押し圧力が強い状況が続く。急速な金融引き締めやウクライナ情勢の影響を受ける米国、欧州の景気後退懸念が強まっており、米国向け輸出はすでに減少傾向に入っているように見える。今後も海外経済減速の影響が大きくなる中で、輸出は下押しされる可能性が高い。

一方、輸入については今後も高止まりが続く見込み。足元の原油価格（ドバイ）は、世界経済の減速による需要減を警戒して、100ドルを割る水準まで下落している。8月以降の輸入物価はこれまでの大幅上昇に一服感を強めると見込まれるが、当面は高水準での推移が続くだろう。今後も輸入金額が輸出金額を上回る展開が継続することで、大幅な貿易赤字での推移が続く可能性が高い。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

